## 表5　Bのコンサルテーション内容

| | 記録／教師からの本児の様子 | コンサル内容<br>目的 | 支援アドバイス | それに対する具体的に行った手立て |
|---|---|---|---|---|
| 9月 | (記録・教師の話より)手噛みの機能は逃避・獲得機能が強い。次の活動を促された時、好きな活動を止めるように指示された時に頻出。 | 困った時に周囲に助けを求めることができるようになるために | ①困った時の本児なりの意思表出手段を身につける。 | 「先生手伝って」カードの使用を訓練した。 |
| | | 現在の認知能力を調べるために | ②絵カードと具体物マッチングができるのか、音声刺激で絵カード選択できるのか等のアセスメントをする。 | 現在使用している絵カード、日用品の名詞理解度を調べた。 |
| 10月 | (記録・教師の話より)「先生手伝って」カード、「DVDがみたい」カードを導入してから、困った場面で教師を呼び、困難場面を解決できるようになった。手噛みの回数も減った。 | 場面般化させるために | ③DVD場面の次に本児の動機付けが強い場面でカード要求を設定する。 | 給食場面で「おかわり」場面を作って、カードで要求を促した。すぐにできた。 |
| | (教師の話より)カードを増やしたいが、混乱しそうなので検討中である。 | 正確にカード認知できているのか査定するために | ④絵カードを2枚(たとえば一方は真っ白)のカードを提示して、音声指示で選択できるのか調べる。 | 現在使用しているカードで選択させた。最も好きなDVDカードでも、なかなか選択できなかった。 |
| | (記録より)朝の時間に頻出している。(教師の話より)登校バスを降りてから教室までの間で、他児や教師に挨拶させようとすると自傷が出ることがある。 | 挨拶時の自傷を減らすために | ⑤機能はおそらく逃避。挨拶はハイタッチなど簡単なものでもよい。教師間で共通認識をしておく。 | 本児とよく接触のある教師間で共通認識を行い、ハイタッチで挨拶することにした。 |
| 11月 | (記録より)手噛みが減少していない。9月と機能を比較すると、回避機能が強く残っている。(教師の話より)DVDを途中で止めさせようとすると強い手噛みだ頻出する。 | 納得してDVDを切り上げることができるために | ⑥DVDを一人で立ち上げ、一人で片づけることができるように指導する。<br>⑦DVDを工夫。15分で終わるようにDVDを編集する。<br>⑧DVDを見る→帰り会の合間を無くし、すぐに帰宅できるように時間設定を工夫する。 | ・困っている様子がみられたら手噛みが出る前に「手伝ってカード」をポインティングして出させた。 |
| | (記録より)登校後30分間に自傷が頻出。特に着替え場面で多いようだ。<br>(直接観察より)動線が交錯している。 | 着替え場面の負荷を減らすために | ⑨手続き作成表で着替え場面のどの工程で行動が滞っているのか確認。スモールステップで指導する。<br>⑩動線を確認。シンプルにする。 | ・動線を確認し、スケジュールの位置を変更した。<br>・着替え時のプロンプトを変更し、停滞することが少なくなるようにした。 |
| 12月 | (記録・教師の話より)着替え時の手続き作成表を作成したが同じところで停滞する。 | 本児に適した手続き作成表を使用するために | ⑪要素の確認。<br>⑫プロンプトの変更。 | ・教室が変更し、以前できてたことに時間がかかるようになったため、プロンプトを重めにした。 |
| | (教師の話より)したくないことをしなくてはならない時にも手噛みが出る。 | 適切に拒否できるようになるために | ⑬拒否を伝える方法を練習する。 | ・トイレに行きますかと質問をしてカードを提示すると、行かないと言わんばかりに押しのけて伝えることができた。 |
| | | 拒否が出ないように | ⑭拒否がでないような指示の出し方をする。 | ・本人の遊びの集中の波に合わせて終わりを提案するようにした。 |
| 1月 | (記録から)暇な時間に部屋を歩き回る行動が見られるようになった。 | 手持無沙汰な時間を作らないために | ⑮不安定な時は活動を多めに設定し、プロンプトを多くする。 | ・スケジュールに余暇を入れこみ、活動を設定した。<br>・活動の合間に手遊び歌などを設定した。 |
| | | | ⑯引き続き余暇開発をする。 | ・音の出るおもちゃ、バランスボールを購入した。 |
| 2月 | (教師の話より)新しいこだわり(人を掴む、触る、後戻りをする)が増えている。 | 手持無沙汰な時間を作らないために | ⑰本児の活動を多くして、他児とペースを合わせる。 | ・活動の開始時間からちょうどよいタイミングで参加できるようにスケジュールを調整した。 |
| | | 次の活動に切り替えができるようになるために | ⑱楽しい活動を設定する。 | |
| 3月 | (記録、教師の話より)年間を通して手噛みは減少した。人を触る、後戻りするなどは昨年もあったようだ。時期によって出るようだ。 | 支援を引き継ぐために | ⑲年間を通した行動の記録や有効な支援方法、本児の体調の変化などを来年度のチームに引き継ぐ。 | |

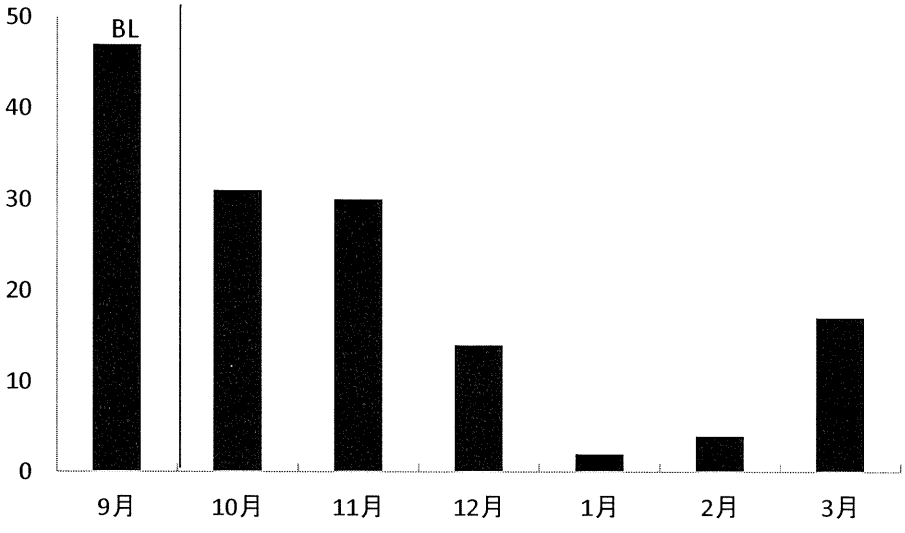


図 2　B の問題行動(手噛み)生起回数

## 表6　Cのコンサルテーション内容

| | 記録／教師からの本児の様子 | コンサル内容<br>目的 | 支援アドバイス | それに対する具体的に行った手立て |
|---|---|---|---|---|
| 9月 | (記録・教師の話・直接観察・ビデオ観察より)問題行動のきっかけが分らない。特定の言葉がきっかけになっているようだ。 | 刺激となる言葉を共通理解するために | ①きっかけと思われる言葉をリストアップして教師間で共通認識を持つ。 | |
| | (記録より)給食時間に他害が頻出している。(教師の話より)現在食事は教師2人で対応している。一人が食べさせており、もう一人は本児の手を持っている。 | 介助を減らし、教師と本児の距離を取るために | ②自力で食事できるように練習する。<br>③ポケットに手を入れる、何か物を持つなどして、教師が手を持たなくてもよいような対応を考える。 | |
| 10月 | (記録・教師の話より)つば吐きをどのように対応したらいいのか。無視していてもおさまらない。 | つば吐きの機能を特定し、機能に応じた手立てを考えるために | ④つば吐きの詳細な記録をとる。<br>⑤機能に応じた対応をする。 | ・感覚要因であるようであるつば吐きについては次の活動を促し、注目要求であるようなら「遊んでください」とモデル提示した。 |
| | (記録・教師の話より)依然給食時間で問題行動が頻出。給食前の教師の変更時に不安定になる。 | 教師の変更に見通しを持たせるために | ⑥事前に教師の変更を予告する。 | ・朝の会で予告した。 |
| | (記録・教師の話から)自傷の機能は注目のようである。 | 自傷を減らすために | ⑦機能に応じた対応を行う。 | ・今までは自傷を始めたら止めていたが、他の遊びの誘ったり、対応しないようにした。 |
| 11月 | (ビデオより)給食の待ち時間でイライラしている様子。 | 待ち時間を穏やかに過ごすために | ⑧給食準備の手伝いを促す。<br>⑨待ち時間に好きな活動を入れる。<br>⑩待ち時間が短くする。 | ・本児には必要な手立てではない。 |
| | (ビデオ・教師の話より)後ろで手を持っている教師に他害が出る。 | 介助を減らし、教師と本児の距離を取るために | ⑪背後の介助を減らすために、持つ位置を手首から肩にずらす。<br>⑫自力で食べる機会を作る。 | ・肩にかるく手を添える程度に変更した。<br>・まだチャレンジできない。 |
| | (ビデオ・記録より)つば吐きには注目と逃避の機能がある。 | 機能に応じた対応を行うために | ⑬フローチャートの作成。(例:機能が注目の場合はつば吐きには反応せずに、違う活動に促す。 適切な行動時に注目する。適切な注目を得る方法を教える。) | |
| | (ビデオ・記録・教師の話より)自立課題には従事できている。 | 適切に過ごせている時間を増やすために | ⑭課題を増やす。 | ・まだチャレンジできない。 |
| | (ビデオ・記録より)すべての問題行動は教師が接近している時に頻出している。 | 問題行動を喚起させないために | ⑮本児が落ち着いて過ごせている時は教師は離れて見守る。<br>⑯教師に近くに来てほしいようであったら、モデルを示して「こっち来て」と言えたら関わる。 | ・離れた位置で見守り、状況に応じて対応した。 |
| 12月 | (教師の話より)急に耳をふさぐ行動がみられる。 | 対応を統一するために | ⑰耳ふさぎは自己防衛だととらえる。見守りでよい。 | ・見守っている。 |
| | (教師の話より)新しい活動を提案しようとするができない。 | 安定して新しい活動に取り組めるように | ⑱丁寧に導入する。チームで方法を共通理解してから始める。<br>⑲うまくいかなかったときどうするかも考えておく。 | ・取り組んでいない。同じ活動で過ごした。 |
| 1月 | (記録から)比較的落ち着いて過ごせている。新しい活動を提示することも可能である。 | 新しい活動に参加できるように | ⑳活動の提案を工夫する。 | ・本児の調子が悪く提案できていない。 |
| 2月 | (教師の話から)好きな活動(カップケーキ作り)時でも布団から出てこない。 | 好きな活動に参加できるように | ㉑カップケーキの他、本児が興味を示しそうな活動を提案する。 | ・甘納豆団子作りに誘ったが、初回は興味深げにテーブルの所までさてじっとみていた。2回目からは不機嫌な状態になった。 |
| | (記録より)帰りのマイクロバスに乗る前に不安定になる。迎えの職員を考えて不安定になっている様子。 | バスに落ち着いて乗れるように | ㉒下校前に職員の提示をする。 | ・行っていない。 |
| | | | ㉓お守りグッズを持っていく。 | ・布団をかぶってバスに向かったところ、落ち着いて乗れた。 |
| 3月 | (教師の話より)寒いのか気分がすぐれず布団から出てこない日が多い。このような過ごし方でよいのか。 | 主体的に活動できるように | ㉔本児が楽しめるような活動を提案する。 | |

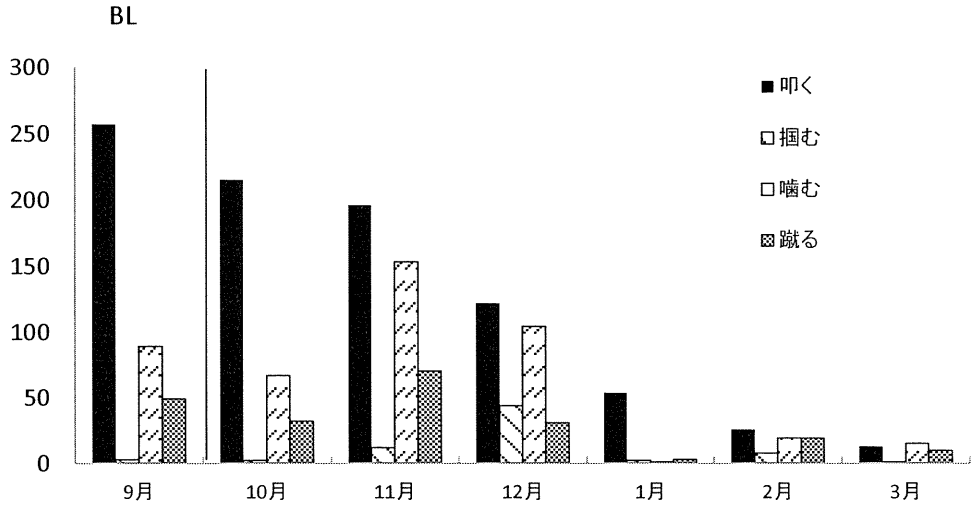


図３　Ｃの問題行動生起回数(他害)

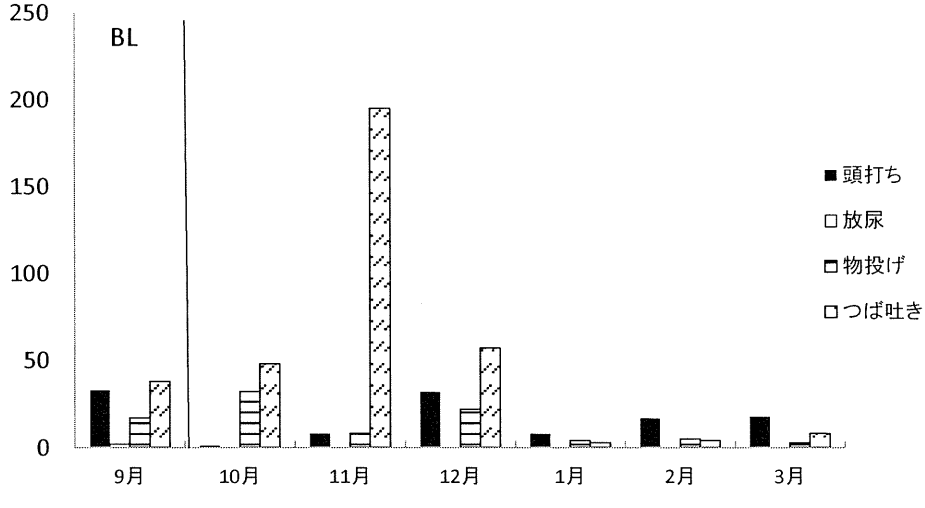


図４　Ｃの問題行動生起回数(その他)

表７　Ｄのコンサルテーション内容

| | 記録／教師からの本児の様子 | コンサル内容 目的 | コンサル内容 支援アドバイス | それに対する具体的に行った手立て |
|---|---|---|---|---|
| 9月 | (ビデオ・記録より)奇声・掴むは逃避機能が強い。座って休憩している状態から次の活動に促したときに頻出。 | スムーズに次の活動にうつることができるように | ①正面から腕を引くのではなく、後ろから脇を持ち立たせる。<br>②具体物で提示する。<br>③活動のシンボルとなるものを作り、それらをカードで提示する。 | |
| | (教師の話より)絵カードを提示しても動けない。 | | | |
| | (ビデオ・教師の話より)常に教師との接触を望み、一人の活動ができない。 | 一人で活動ができるようになるために | ④「手伝ってカード」等で意志表示ができるようになる。 | ・最も動機付けの高い給食場面で「おかわりカード」を導入した。 |
| 10月 | (ビデオ・記録より)活動と活動の間に問題行動が頻出。 | スムーズに次の活動にうつることができるように | ⑤前の活動が終わったらすぐに指示して次の活動に促す。 | |
| | (教師の話より)移動中に注意が逸れて、教師の意図と反する場所に行ってしまう。 | スムーズな移動ができるように | ⑥移動する際の誘導の仕方を工夫する。 | ・本児が興味を示すであろう刺激の多い方を体で塞ぎ、行く先を指で示しながら素早く移動するようにした。 |
| | (ビデオ・記録・教師の話より)好きな活動から課題への切り替えができず、奇声や掴む行動が頻出。どの様に切り上げさせればよいのか。 | 好きな活動を納得して止めることができるようになるために | ⑦活動の終わりに「終わりの儀式」を設定する。<br>⑧切り上げやすいように教材を工夫する。 | ・おしまいのかごを用意して、余暇グッズをしまわせるようにした。<br>・CDは1曲で終るように機器を設定した。 |
| 11月 | (記録・教師の話より)問題行動は以前より減少した。今後一人でできる活動を増やしたい。 | 一人で穏やかに過ごせる時間を増やすために | ⑨余暇開発を行う。 | ・遊びグッズを提案した。まだ途中段階です。 |
| | | 一人で移動ができるようになるために | ⑩短い距離から一人での移動を促す。 | ・まずは腕組で移動できるようにチャレンジしている。 |
| | | 一人で靴・服の着脱ができるようになるために | ⑪手続き作成表を作る。 | ・最後の動作だけ本人が行った。 |
| | (教師の話より)集団場面で自分の位置が分からずに逸脱してしまうことがある。現在はマットを敷いているが、そこに座らない。 | 自分の位置を把握し、着席できるようになるために | ⑫折りたたみの椅子等に座らせる。 | |
| 12月 | (記録より)次の活動に誘う時に「いやだ」が出る | スムーズに参加できるように | ⑬無理に立たせないで、興味をひかせて立った時にそのまま促す。 | ・指導者が慣れる必要がある。まだ難しい。 |
| | (教師・保護者の話より)病院受診ができずに困っている。 | 病院受診ができるようになるために | ⑭保健室で訓練する。 | ・保健室に協力してもらい、挑戦中。 |
| 1月 | (教師の話より)自立課題に誘うが、なかなか動かない。 | 課題ができるようになるために | ⑮課題内容を検討する。 | ・最後の課題を好きなアクエリアスのふたをひねってあけて飲むものにした。 |
| 2月 | (教師の話より)保健室に行き座って聴診器を当てることができるようになった。 | 病院受診ができるようになるために | ⑯引き続きスモールステップで取り組む。 | ・聴診器は冷たいのか嫌がることも。暖かくなってからチャレンジしようと思う。 |
| 3月 | (教師の話より)対応ができるようになってきた。来年度の個別の指導計画を作成した。 | 支援を引き継ぐために | ⑰今年度有効であった支援方法をまとめ、来年度のチームに引き継ぐ。 | |

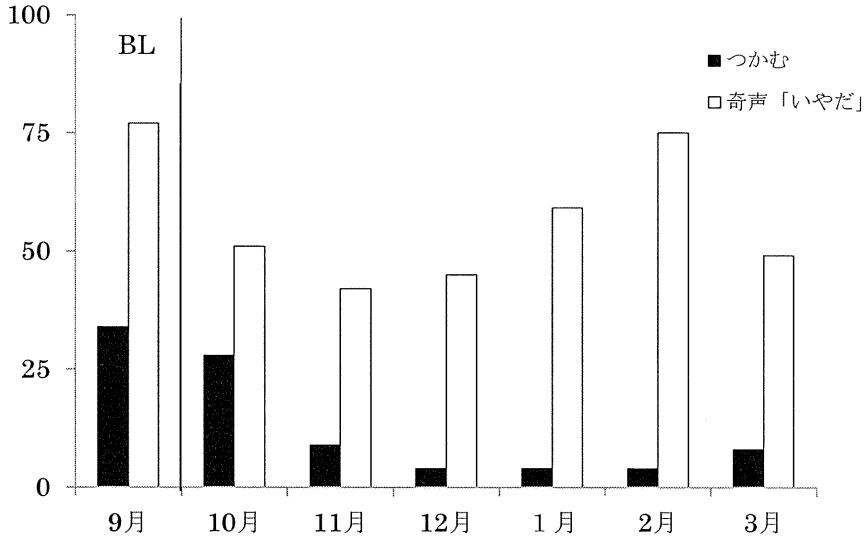


図5　Dの問題行動生起回数

## 表８　Ｅのコンサルテーション内容

| | 記録／教師からの本児の様子 | コンサル内容 目的 | コンサル内容 支援アドバイス | それに対する具体的に行った手立て |
|---|---|---|---|---|
| 6月 | (記録・担任の話より) 機能は回避である。 | 本児が納得するルールを設定し、守れるように | ①行動契約を行い、達成したらしっかり褒める。 | |
| 7月 | (記録・担任の話より)問題行動が生起する場面は登校後バスを降りたとき。 | 降車後スムーズに教室の入室できるようになるために | ②再度行動契約を結ぶ。 | |
| | (記録より)午後の個別課題は問題行動なく落ち着いて過ごせている。 | 一人で作業ができる時間を増やすために | ③課題を少しずつ増やし、一連の課題ができたらしっかり褒める。 | |
| 9月 | (記録・教師の話より)だいぶ落ち着いてきた。しかし不穏な状態が続いており、緊張状態である。<br>(教師の話より)イライラするとトイレに逃げ込んでしまう。 | 自分でクールダウンできるようになるために | ④本児が不穏な状態になったら、教師は統一された対応を行い、パターン化させる(クールダウンの方法を身につけさせる)。<br>⑤本児なりのクールダウンの方法。ある程度待って、落ち着いてから声掛けをする。 | |
| | (記録・教師の話より)問題行動は落ち着いた。今後どのような活動を取り入れていくべきか。 | 登校にむけて | ⑥現在のスケジュールの中に、以前学校で行っていた課題を入れる。<br>⑦本児の登校に向けて学校内の環境調整を行う。 | |
| 10月 | (教師の話より)昨年度行っていた行動契約を取り入れた。 | 本児が積極的に取り組むことができるように | ⑧契約内容の確認をこまめに本人と確認する。<br>⑨失敗しても回復できるような工夫する。ゲーム制を取り入れて楽しめるように工夫する。<br>⑩ご褒美のバリエーションを増やす。 | ・契約内容を2時間ごとに確認している。<br>・お楽しみ券を作って楽しめるように工夫した。<br>・ご褒美メニューを作ってその中から選択できるようにした。 |
| | (教師の話より)CDラジカセの音量が大きく、注意するとイライラする。 | ルールを守ってCDラジカセを使用できるようになるために<br>ストレスマネジメントを身につけるために | ⑪上げてもいい音量を設定しておき、それ以上はヘッドフォンを使用するなど、ルールを設定する。<br>⑫感情モニタリングできるように温度計等を使って図示する。どうしたらその数値が下がるのか学ぶ。 | ・音量を20までという約束を本児が」落ち着いているときに行った。 |
| 11月 | (教師の話より)CDラジカセの音量を意識できるようになった。しかし興奮すると大きくしてしまうことがあり、そのようなときに注意するとイライラする。 | ルールを守れるようになるために<br>本児が教師の注意を受け入れることができるようになるために<br>ストレスマネジメントを身につけるために | ⑬ラジカセを渡すときにルールを確認する。少しでも守れている時にすかさず褒める。できている時にしっかり褒めて、できていない時には声掛けの仕方を工夫する。<br>⑭本児が受け入れやすい注意の仕方を考える。<br>⑮本児が落ち着いている状態で、感情に点数づけさせる。 | ・ここ1週間ボリュームを小さくできるようになった。褒めている。<br>・気持ちを表現するカードを作ったが、恥ずかしがって使いたがらない。 |
| | (記録・教師の話より)問題行動は落ち着いた。 | 登校にむけて | ⑯課題学習や休憩時間の過ごし方等、本児が楽しくできる活動をたくさん作っておく(目標40個)。<br>⑰登校計画を立てる。 | ・10個ほど活動ネタを考えた。今後試す。 |
| 12月 | (教師の話より)落ち着いているが、不穏な空気がある。イライラしていることがよ | 不安になったら表現できるように | ⑱「先生話しを聞いて」カードなどを導入する | ・現在個別対応であるため必要ない。 |
| | (教師の話より)登校に向けて対応できる教師を増やしたい。 | 対応できる教師を増やすために | ⑲新しい教師が入る場合は、慣れている先生と好きな活動をしているときに、少し参加する、から始める。 | ・2月から入れる予定。 |
| | (教師の話より)飛び出したら追いかけている。 | 飛び出しを強化しないために | ⑳注目機能の場合追いかけない。 | ・リラックススペースを作り、そこで過ごすことを提案した。 |
| 1月 | (教師の話より)余暇として他児や教師に向けてたくさん手紙を書く。どのように対応すればいいか。 | 余暇を広げるために | ㉑手紙を書くだけでなく、色を塗る、封筒を作るなど、活動の幅を広げる。 | ・余暇で封筒を作り、「これ使う？」と聞いたが使いたがらなかった。 |
| | (教師の話より)よく明らかに嘘と思われることを言う。どう対応すればいいのか。 | 虚言を適切な会話に変えるために | ㉒虚言と思われる話には過剰に反応せず、適応的な会話にもっていく。 | ・何かと他者を批判することをいいたがるが、「そっか」といった対応をして、過剰に反応しないようにした。 |
| 2月 | (教師の話より)現在落ち着いて過ごせている。週2登校に向けて準備をしたい。 | 安定して登校できるために | ㉓学校に行きたくなるような魅力的な活動をたくさん用意する。 | |
| | (教師の話より)問題行動後に本人の要求をかなえてもいいのか。 | 適切にクールダウンするために | ㉔かんしゃく後に要求は満たさない。<br>㉕施設と対応を統一する。 | |
| 3月 | (教師の話より)比較的落ち着いて過ごせている。来年度新担任になっても落ち着いて過ごせるようにアドバイスがほしい。 | 支援を引き継ぐために | ㉖本年度有効であった支援方法をそのまま伝え、なるべく変更が少なくなるようにする。 | |

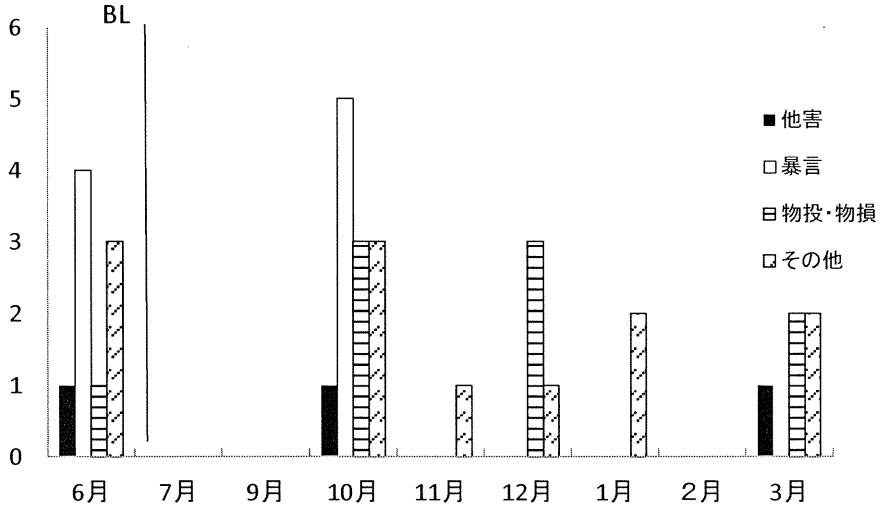


図 6　E の問題行動生起回数

## 表9　Fのコンサルテーション内容

| | 記録／教師からの本児の様子 | コンサル内容<br>目的 | 支援アドバイス | それに対する具体的に行った手立て |
|---|---|---|---|---|
| 9月 | (ビデオ・教師の話より)自傷の機能は感覚要因である。 | 代替となる活動を探すために | ①感覚遊びの開発を行う。 | ・とげとげ、固いもの、柔らかいものなど、数種類のボールを提案した。 |
| | | 暇な時間に楽しめる活動を増やすために | ②余暇開発を行う。 | ・Ipad、ヘッドフォン、音が出るおもちゃ、光るおもちゃ、振動するおもちゃなどを提案した。 |
| | (成育歴より)自傷の歴史が長い。 | 家庭での対応方法、これまでの対応方法をしり、今後の対応を見直すために | ③成育歴の見直し、家庭での様子の聞き取りを行う。 | ・これまでの記録を見直した。 |
| 10月 | (教師の話より)自発的に動くことがあまりない。 | 今後コミュニケーションの獲得を目指す上で自発性を促すために | ④好みの差を調べる。<br>⑤本児が要求をしてくるような場面を意図的に設定する。 | ・具体物を2つ提示して選択させ、好きなものを順位づけする。 |
| | (教師の話より)言語はかなり理解している様子である。語彙のある様子。 | 正確な語彙力を査定するために | ⑦PVT-Rを実施する。 | ・学校にPVT-Rがない。 |
| | (記録より)登校後～朝の準備時に自傷が頻出している | どの活動で頻出しているのか調べるために | ⑧登校後～朝の準備の詳細な記録 | ・1週間記録をとった |
| | (記録より)日によって自傷回数が大きく異なる。 | 本児の調子に合わせた支援を行うために | ⑨登校時の本児の調子に合わせて一日のスケジュールを調整する。 | ・課題の量や休憩で調整した。 |
| 11月 | (記録より)着替え場面で自傷が頻出している。<br>(教師の話より)自傷が出る直前は肩が上がり、全身に力が入っている。 | 自傷に対する適切な支援を開発するために | ⑩力が入ってきたら肩ゆるめを行ってみる。行う日と行わない日で自傷回数が変化するか記録を行う。 | |
| | (教師の話より)学校にPVT-Rがないため実施できない。 | 正確な語彙力を査定するために | ⑪研究室からPVT-Rを貸し出し、実施する。 | |

## 表 10　Gのコンサルテーション内容

| | 記録／教師からの本児の様子 | コンサル内容 目的 | コンサル内容 支援アドバイス | それに対する具体的に行った手立て |
|---|---|---|---|---|
| 7月 | ・(記録より)特に音楽の時間にパニックが頻出。(教師の話より)特に授業の始めで起こる。<br>・(教師の話より)集団場面が苦手。卒業式に参加させたいが、「旅立ちの日に」が苦手で、聞くとパニックが生起する。 | 待ち時間を少なくするために<br>見通しを持たせるために<br>苦手な活動に頑張って参加するために<br>目標設定の見直しのために<br>苦手な曲を受け入れることができるようになるために | ①授業が始まる直前に教室に入室する。<br>②終わりを明示する。<br>③事前に「約束」をする。頑張れたらご褒美を設定する。<br>④集団場面は部分参加でも頑張れたらよしとする。<br>⑤苦手な曲については、スモールステップでフラッディングすると、次第に受け入れることができるようになるかもしれない。 | |
| 9月 | ・(記録・教師の話より)落ち着いて過ごすことができる日が増えてきた。<br>・(教師の話より)ご褒美を楽しみに苦手な活動にも参加できるようになった | 本児の頑張りを、本児自身と周囲がしっかり認めることができるように<br>パニックの未然に防ぐために | ⑥パニックなしで過ごせた時のご褒美を渡す際の工夫を行う。<br>⑦パニックを防ぐための事前の工夫を行う。 | ・毎時間の活動の後に本児と一緒に振り返り、確認した。<br>・朝、1時間目、2・3時間目、4時間目、給食昼休憩、5時間目、そうじの7つの活動のうち、5つ丸だったら、そうじ後にお菓子をもらえるようにした。<br>・パニックが予想される活動の際は、特にこまめに言語賞賛を行った。<br>・これまでの記録から、特にパニックが頻出する活動については、さらに細かいスケジュールを作成・提示した(教室の移動の有無、教師や同じ空間で過ごす他児の顔写真) |
| 10月 | ・(記録・教師の話より)落ち着いて過ごせるようになったので、活動の幅を広げたい。 | 活動の幅を広げるために | ⑧現在本児が落ち着いてできている活動を、見守りでできるように介助を減らす。<br>⑨人や場面のこだわりをゆるめるために、こだわるものをスケジュールに入れる。 | ・トイレ、ゴミ捨て等、毎日のスケジュールで決まっている逸脱の少ない活動を見守った。<br>・特にこだわりの強い音楽、体育のスケジュールに一緒に活動する教師、他児の顔写真をつけた。 |
| 11月 | ・(教師の話より)新しいこだわりが出現した(他児Aのズボンを脱がせてお尻のにおいを嗅ぐ)。どの様に対応すればいいか。 | 行動を未然に防ぐために<br>学校外での様子・対応方法を知るために<br>暇な時間に本児に活動を提案するために | ⑩他児Aとの距離を取る、他児Aがベルトをする等の環境調整を行う。<br>⑪事前に「約束」を行う。守れたらしっかり褒める<br>⑫家庭での様子を聞き取る。<br>⑬余暇開発を行う。 | |
| 12月 | ・(教師の話より)よくトイレに行きたがる。性器を触っているようだ。 | ルールを守って性器を触れるようになるために | ⑭プライベートな空間を用意して、そこでのマスターベーションはOKにする。<br>⑮家庭と情報交換をする。 | |
| 1月 | ・(教師の話より)朝から声が出る日が数日あった。機嫌はよく荒れることはなかった。薬の変更が影響してる? | 医療と連携するために | ⑯保護者を通して行動の記録等を主治医に報告し、必要であるなら薬の調節を考える。 | |
| 2月 | ・(教師の話より)大変落ち着いている。不安定になると自ら休憩を要求し、一定時間すると戻れることが多くなった。 | 来年度に引き継ぐために | ⑰有効な支援方法をまとめ、来援度のチームに引き継ぐ。 | |
| 3月 | ・(教師の話より)年間を通してとても落ち着いた。予測できないパニックもない。 | パニックを未然に防ぐために | ⑱パニックの前兆を捉え、クールダウン等に促す関わりを今後も続けていく。 | |

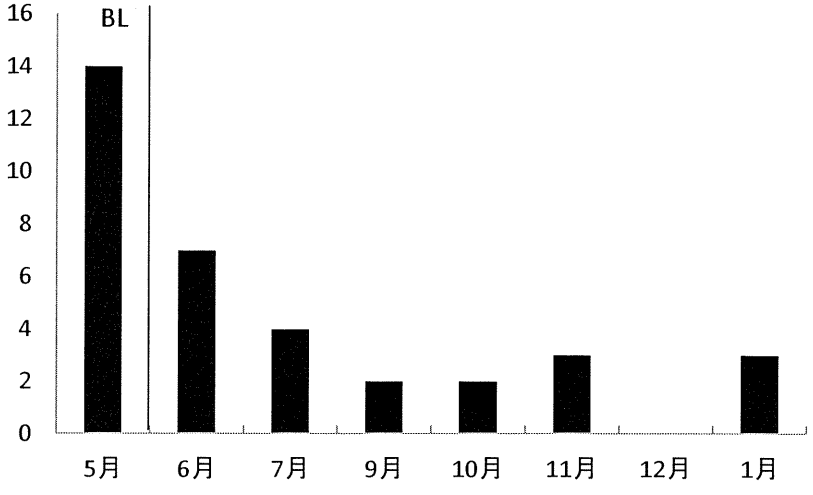


図 7　G の問題行動生起回数(パニック)

## 表 11　H のコンサルテーション内容

| | 記録／教師からの本児の様子 | コンサル内容 目的 | コンサル内容 支援アドバイス | それに対する具体的に行った手立て |
|---|---|---|---|---|
| 7月 | (教師の話より)変化を嫌い、電気のつけ消し、便座のフタの開け閉めなどに強いこだわりがある。どの様に対応したらよいのか。 | 問題となる行動の実態を知るために | ①記録を行う。 | |
| | | こだわりを和らげるために | ②こだわりの順位をつけ、譲れるものからご褒美を設定して介入する。 | |
| | | 上手にこだわりを切り上げさせるために | ③余暇開発を行い、こだわり行動が生起したら提示し、スムーズに切り上げさせる。 | |
| | | 家庭での対応方法、これまでの対応方法をしり、今後の対応を見直すために | ③家庭での問題行動の聞き取りを行う。 | |
| 9月 | (教師の話より)余暇につながるものが見当たらない。 | 余暇開発のために | ④家庭での過ごし方を聞き取る。<br>⑤現在比較的関心のある物の共通点を調べたり、以前興味があったものを提案する。 | ・エアパッキン、リング、鳴子、シャボン玉、音楽、パズルなど10個提案し、1～4で順位づけを行った。 |
| | (教師の話より)こだわり行動が生起した時にどのように対応すればよいのか分らない。 | 上手にこだわりを切り上げさせるために | ⑥教師間で対応を統一する。フローチャートなどを作成し、共通認識する。 | ・フローチャートを作成し、教師間で同様の対応を行った。 |
| | (教師の話より)意志表示は絵カードを指差しして要求することがあるが、理解できているかわからない。 | コミュニケーションを獲得するために | ⑦PECS指導を行う。 | |
| 10月 | (教師の話より)フローチャートを作成したが、これでよいのか | こだわり別の対応をするために | ⑧各こだわりごとのフローチャートを作成する。 | |
| 11月 | (教師の話より)作業中に横で作業をしている人にちょっかいを出してしまう。 | 他児に構わずに集中して作業を行うために | ⑨他児と距離を取るなど作業場所の構造化を行う | |
| | (教師の話より)落ち着いて過ごせている。 | 一人で作業ができるようになるために | ⑩作業時のプロンプトを減らす。 | |
| 12月 | (教師の話より)落ち着いてすごせている。 | 一人で過ごせるように | ⑪2つ以上の活動をプロンプトなしでできるように指導する。 | |
| 1月 | (教師の話より)ばんそうこをはれない。 | ばんそうこをはれるように | ⑫段階的にチャレンジする | ・始めは短い時間からすることで貼れる時間が延びた。 |

## 表 12　Ｉのコンサルテーション内容

| | 記録／教師からの本児の様子 | コンサル内容 目的 | コンサル内容 支援アドバイス | それに対する具体的に行った手立て |
|---|---|---|---|---|
| 5月 | (記録・教師の話より)体育祭等の集団場面で他害・逸脱が頻出。機能は回避。 | 他害なしで活動に参加するために | ①集団参加の仕方を検討する。<br>②余暇グッズを携帯する。 | |
| | (教師の話より)デジカメなどの電化製品が好き。しかし壊してしまう。 | 余暇の充実のために | ③正しいデジカメの使用方法を教える。 | |
| 6月 | (記録・教師の話)他害は注目機能が強く、空き時間に多い。 | 暇な時間に楽しめる活動を増やすために | ④本児が興味あるもの(デジカメ等)の使用方法を教え、適切に扱うことができるように指導する。 | |
| | | 適切に注目を得るために | ⑤役割を与え、しっかり褒める | |
| 7月 | (教師の話より)現在こだわりの抑制のための向精神薬が追加され、これまで使用していた薬を減薬しているため、衝動性が上がっているように感じる。 | 薬の効果を測定するために | ⑥行動の記録を取る。<br>⑦家庭での様子の聞き取りを行う。 | |
| | (教師の話より)着替えに対する強いこだわりがあり、登校前後は不安定になる。これらを止めようとすると他害が生起する。木曜日は3限の着替えがないため、不安定になり、他害が頻出している。 | 着替え時の他害を防ぐために | ⑧木曜日の着替えが必要ないことを事前に説明する。<br>⑨着替えが必要ないようにルールを変える。 | |
| 9月 | (記録・教師の話より)夏休み明けから落着きがない。登下校のバスで問題行動が頻出するようになった。 | バス中の問題行動の実態把握のために | ⑩バス中の問題行動の記録を行う。 | ・観察のために教師が添乗した。 |
| | | バス中での問題行動を防ぐために | ⑪本児が集中して取り組むことができるような活動を提案する。<br>⑫問題行動を起こさなかった時のご褒美の設定を、本児が理解できるようにルール設定する。 | ・指導のために教師が添乗し、スライム、音の鳴るおもちゃなどを提案した。 |
| | | 現在服薬をどの程度行っているのか知るために | ⑬現在の服薬の様子と、薬の切り替えについての今後の予定とを家庭から聞き取る。 | ・懇談時に保護者から聞き取った。 |
| 10月 | (記録・担任の話より)登下校での問題行動は、教師が添乗し、スライムを提案することで他害は減少したが、服(ポロシャツ)のこだわりは依然強く、服やぶり等が頻出している。 | 服やぶりを無くすために | ⑭登校時ポロシャツでなく体操服で登校できないか保護者に提案する。<br>⑮ひまつぶしグッズを増やす。<br>⑯やぶらずに過ごせた時はしっかり強化する。 | ・母親に体操服での登校を提案した。<br>・投げてしまうものは紐をつけて座席に結び、提案した。<br>・バスから下車した時に、添乗員に様子を聞き、担任が褒めた。 |
| 11月 | (記録・担任の記録より)10月の後半から以前服薬していた薬に戻したところ、行動が落ち着いた。また、ポロシャツでの登校を止めてから、車中・学校での問題行動が激減した。 | 卒後福祉につなげる際、穏やかに過ごすことができるように | ⑰一人で過ごせる余暇開発を行う。 | |
| 12月 | (教師の話より)休憩時間で問題行動が起きる。 | 休憩時間を穏やかに過ごせるように | ⑱休憩時間の過ごし方を提案する。 | ・休憩時間になる前に、2、3個活動を提案した。 |
| | (教師の話より)一人で活動ができない。 | 一人で活動できるように | ⑲2つ以上の活動をプロンプトなしで連続して行えるように指導する。 | ・スケジュールを提示する。 |
| 1月 | (教師の話より)バスでの問題行動が頻出。不安定な日は学校でも荒れる。 | 本児は穏やかに過ごせるように | ⑳家庭と連携する | ・朝から調子が悪いときは母親から連絡が来て、まず個室に通してから教室に移動した。 |
| 2月 | (教師の話より)最近は母親の車で登校しているため登校時の問題行動はないようだが、学校についてから必ず服破りをする。 | 服やぶりを無くすために | ㉑家庭の方法を採用する。 | ・服を脱いだら捨てる練習をした。 |
| 3月 | (教師の話より)服を捨てれるときと破るときがある。まだ定着していない。 | 服やぶりを無くすために | ㉒方法を統一して継続する。 | |

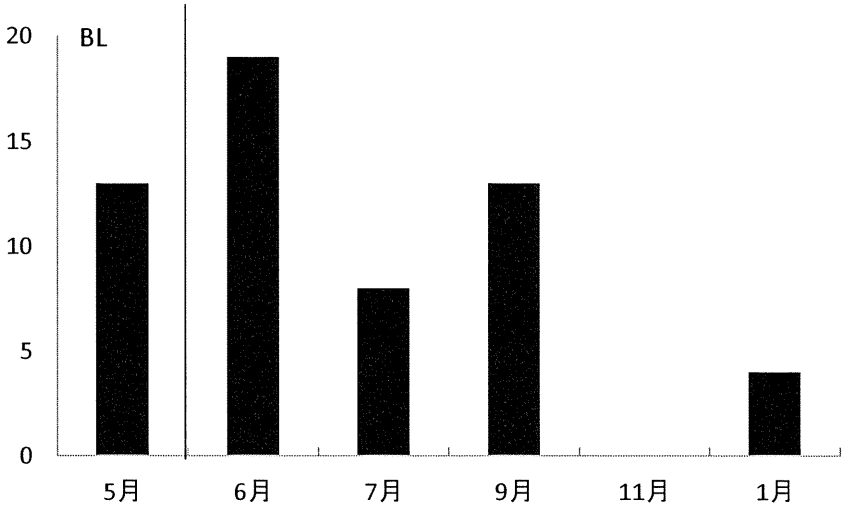


図８　Ｉの問題行動生起回数(他害)

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）

（主任研究者　井上雅彦）
分担研究報告書

# 大規模入所施設から民間入所施設への行動コンサルテーション

研究協力者　　村本　浄司　茨城県立あすなろの郷
角田　博文　茨城県立あすなろの郷

研究要旨

本研究では民間施設において行動障害を示す自閉症者に対して、大規模入所施設から応用行動分析と発達障害に関する専門家を派遣し、コンサルテーションの実施を通して、対象者の行動障害の軽減を図ることを目的とした。

コンサルテーションは、茨城県立あすなろの郷に所属する応用行動分析と行動障害に関する専門家とソーシャルワーカーの２名が月に１回、約２時間程度訪問する形で実施した。対象事例は頻度は少ないが強度が大きい攻撃的行動を示す事例であった。機能的アセスメント実施後、行動支援計画を作成し、支援の実施を依頼した。第２次行動支援計画まで実施した結果、対象者の攻撃的行動は支援前と比較して、軽減された。

## A.　研究目的

茨城県立あすなろの郷では、茨城県内の知的障害者援護施設における中核施設としての役割を果たすために、重度重複障害者や強度行動障害者など、家庭や民間の施設において処遇困難な利用者の受入れを平成１９年度より行ってきた。その結果、民間の入所施設において処遇困難となった行動障害者をあすなろの郷へ入所依頼するケースや、行動障害を抱える在宅生活者が、民間施設から何らかの理由をつけて入所を断られ、やむを得ずあすなろの郷へ入所依頼したと思われるケースが増加する事態を招くこととなった。このことは、あすなろの郷への入所者の数を増加させ、さらにその入所者が定員を超え、現在では入所するまで待機させられる結果を招いている。確かに、養育者の高齢化や疾病などで家庭での養育環境が厳しいような緊急性を要する場合や、支援人数が制限され、行動障害者や周囲の人が落ち着いて生活できるような環境が整備されていない民間の入所施設からの入所依頼は、他の利用者に優先して入所を受け入れる必要があるだろう。しかし、民間施設において処遇可能であるにもかかわらず、あすなろの郷への入所依頼があるようなケースの場合には、コンサルテーションを通して民間施設の中で支援を継続で

きる方法も模索する必要がある。すなわち、あすなろの郷から民間の施設に向けて強度行動障害の専門職員を派遣し、その専門職員は民間施設の職員と協働でアセスメント、支援案の立案、支援実施のフォローアップ、評価などを、コンサルテーションの形態で実施していくことで行動障害者への支援を継続していくことにより、民間施設の中でも行動障害のある人への支援の継続が可能なのではないかと推測される。

本研究では、月に1回約2時間程度、あすなろの郷から民間の施設に訪問し、行動障害者への支援に関するコンサルテーションを行うことによって、支援の効果を検討した事例を報告する。

B．研究方法

1）対象者

茨城県の障害者支援施設A園の入所サービスを利用する男性。援助開始年齢36歳であった。話しことばは、「おりがみ」「くれよん」「おへや」などの単語をこちらからの質問に答える形態で話すことができた。対象者の問題行動として、攻撃的行動（人の顔や背中を平手打ちする）がみられていた。

2）診断：知的障害（最重度）、自閉症

3）療育手帳、知能テストの情報：療育手帳はⒶ判定（最重度）で、田中ビネー式知能検査の結果は、測定不能であった。

4）成育歴

幼児期は言葉の遅れは見られたが、生育は順調であった。小学校は養護学校に入学した。2年生になると、対人関係を築くことは困難だが、友人と手をつないで校外学習に参加する様子などが見られた。しかし、スクールバスの中で他児に暴力を振るわれるようになったことがきっかけで、母親に対する暴力が出るようになった。3年生の時に脳波異常からてんかんの診断を受けた。その後、5年生になると、何かのきっかけでパニックを起こし、他児の髪を引っぱったり、他児を押したりする行動が見られるようになった。養護学校中等部2年生頃になると、気持ちが抑えられずに突然母を叩いたり、髪をひっぱたりする行動が頻繁にみられるようになった。この時期に医師から最重度の知的障害と自閉症の診断を受けた。15歳の時に知的障害児施設に入所し、30歳になると現在入所しているA園に転園した。

5）対象施設について

対象の施設は知的障害者の障害者支援施設A園であり、入所利用者50名、生活支援員17名であった。

6）コンサルテーションの経緯

A園へ入所後、対象者の攻撃的行動は激しくなるばかりで、一向に軽減しなかった。また、A園に長年勤めているベテランの職員でさえも、対象者の攻撃的行動のきっかけや原因がつかめず、支援方法に関する手立てが見つかっていなかった。さらに、ある支援者が顔面を殴られ視力が低下したことがあり、そのことがきっかけでA園内において支援困難な状況になっていた。

そのため、A園内で今後も支援を継続するためには、「対象者への薬を増やして対応する」、「日中活動において他の利用者や職員と接触する機会を少なくする」、「他の施設への入所も検討する」などの否定的な支援案が職員内から出ていた。そこでX－1年10月にあすなろの郷に対して、支援の相談と入所の申込があった。しかし、あすな

ろの郷も入所待機者が多数存在するため、即時に入所することは困難な状況であった。そこで、あすなろの郷の職員が訪問し、支援に関する助言を行った。しかし、翌年のX年４月になっても対象者の攻撃的行動が軽減しないため、Ａ園の施設長に対しコンサルテーションによる支援の提案を行い、X年１０月より、あすなろの郷の研究員とソーシャルワーカーによるＡ園に対する訪問相談を開始した。

７）支援手続き

（１）Ａ園職員からの情報収集、あすなろ職員による対象者の行動観察

対象者に関する情報をＡ園職員から聴取した。具体的には、対象者の問題行動の機能を特定するための機能的アセスメントインタビュー（O'Neill, Horner, Albin, Sprague, Storey & Newton, 1997）や対象者の生活の様子等の情報を収集することによって、問題行動の同定を行った。また、実際に対象者の観察を行った。これらのアセスメントの結果、対象者の攻撃的行動は、欲しい物をもらうことを待たされているという状況において、職員から指示されたり周囲に人がいるときに、他者の顔面や背中を平手打ちするという形態で、欲しい物がもらえる、イライラが解消される、作業を行わずに済む、というような結果により維持されているのではないか仮定された。

（２）あすなろの郷職員による行動支援計画立案

第一著者と第二著者が共同で行動支援計画の雛型を作成し、コンサルテーションの際にＡ園職員に提示した。Ａ園職員は全職員でミーティングを行い、行動支援計画の内容について実現可能かどうかと実施方法について検討し、最終的な支援計画を決定した。その行動支援計画に基づいてX年10より対象者への支援が開始された。さらに、行動支援計画は3か月から少なくとも6か月を目安として支援計画を評価することをＡ園職員と確認した。

（３）支援の実施

アセスメント結果から仮説を立て、その仮説に基づいて、あすなろの郷職員2名が行動支援計画を立案し、Ａ園職員に対して提案を行った。その後Ａ園職員より支援計画に関する同意が得られたため、X年10月より第一次行動支援計画による支援を開始した。具体的な支援内容は以下のとおりであった（Fig.1参照）。

【先行子操作】

対象者が職員に対して、欲しい物を要求できる時間帯や活動をあらかじめ決めておくことにした。例えば、「散歩後」や「作業後」などの決まった時間帯に提供するようにし、対象者に対して、「作業が終わったら折り紙あげますね」などと作業を行う前に説明するようにした。また、作業中は、対象者の様子を見ながら、動機づけを維持するために「上手にできていますね」などと声掛けをすることにした。さらに、他利用者からの妨害や視線等、対象者にとって嫌悪刺激になるものを遮断するために、対象者の作業場をパーティションで遮った。

【代替行動・望ましい行動支援】

対象者が欲しい物を要求するときは絵カードか、話し言葉で職員に伝えることができるようにコミュニケーションを教授することにした。また、望ましい行動として、「椅子を片付ける」等の簡単なお手伝いを行わせることとした。

【結果操作】

もし、対象者の問題行動が生起した場合には、職員は何も言わずに、物が何もなく誰も使用していない部屋（居室以外）に誘導することとした。また、問題行動生起後、折り紙などは提供しないことにした。さらに、部屋への誘導後は、本人の様子を見ながら、落ち着いた様子を見せたら、すぐに出すようにした。

一方、対象者が決まった時間にカードや話し言葉で要求できた時には、職員は褒め言葉を与え、即座に要求物を提示することにした。また、職員が求めた手伝いを対象者が実施することができたら、対象者に金や銀の折り紙を供給することにした。さらに、散歩後や作業後など、本人が苦手なことを終えることができた場合には、ハイチュウやミニチョコなど対象者が好きな菓子を提示することにした。

月に1回のコンサルテーションの中で、対象者の様子や、対象者にA園職員の支援が実行できているか、あるいは支援の効果があるかなどの聞き取りを行い、必要なアドバイスを行った。また、月に1回のコンサルテーションのみでは支援の厳密性を高められないと推測されたため、少なくとも1週間に一度、もしくはA園職員が緊急時などの必要だと思われた場合に、パソコンの電子メールにより対象者の様子を報告するように依頼した。

（4）第一次行動支援計画についての評価と第二次行動支援計画の策定

第一次行動支援計画の実施を開始して3か月経過後、A園職員に対して、対象者への支援がどれくらい実行できていたかを評価するための「支援の実効性」と、それぞれの支援が対象者にどのくらい効果があったかを評価する「支援の効果性」を4件法のアンケート形式で回答してもらった（Fig.3、Fig.4参照）。

支援の実効性と効果性に関するアンケート結果を踏まえ、A園職員と効果があった支援や改善が必要な支援について話し合いを行った。その結果に基づいて、最初の行動支援計画作成時と同じ流れで第2次行動支援計画を作成した。第2次行動支援計画はX+1年2月より実施した。支援内容に関して修正した箇所を以下に述べる。

【先行子操作】

追加した支援案として、対象者の1日の日課に見通しが持てるように、文字と時計の書かれたスケジュールの書かれた紙を居室の机に掲示しておくことにした。

【代替行動・望ましい行動指導】

修正した支援案として、「対象者にとって苦手な作業・散歩があるときは、絵カードか、話し言葉で伝える」というものから、「対象者にとって苦手な作業・散歩があるときは、絵カードと、2, 3回声掛けをする」のように修正した。さらに、追加した支援案として「折り紙やセロテープの書かれたカードを対象者に示しながら、“歩に行けたら、この中の物（折り紙、セロテープなど）を渡します”と、前もって教示する」ことにした。

【結果操作】

修正した支援案として、問題行動の後の緊急対応として、「職員は何も言わずに、何もなく誰も使っていない部屋（居室以外）に誘導する」を修正し、「職員は何も言わずに、居室に誘導する。居室内にある時計で15分間、“時計で長い針が○までここにいてくだ

さい”と指示する」とした。追加した支援案として、対象者が作業を終えた後や散歩に後などに「誉め言葉と同時に、選択カードを見せ、本人に指さしで選んでもらう」という支援を加えた。一方、「前もって、本人にルールを伝えておく」「お手伝いができたら、金や銀の折り紙がもらえる」という支援は削除した。

（5）第二次行動支援計画の評価

第二次行動支援計画の実施を開始して 4 か月経過後、前回と同様に、A 園職員に対して、「支援の実効性」と、「支援の効果性」を 4 件法のアンケート形式で回答してもらった（Fig.3、Fig.4 参照）。

C．結果

1）対象者の行動の変化

支援開始前では、朝の散歩などもほとんど行くことができず、職員が無理な誘導を行うと散歩中でも他者への攻撃的行動を示したり、A 園に戻っても表情が険しくなったり動きが激しくなるなどの不安定な様子を見せることが多かった。また、前兆行動等が見られることなく、職員の視点によれば突然、攻撃的行動を示していることが多かった。

第一次行動支援開始の直後は、職員も対象者の行動の原因が推測できず、相変わらず対応に困ることもあった。しかし、パーティションで区切るなどの作業環境を設定したり、対象者を散歩に無理に誘導しないことにより、実際の攻撃的行動の頻度が徐々に軽減した。さらに、第二次行動支援計画の実施後は、X+1 年 2 月では攻撃的行動がやや増加したが、その後徐々に減少している。

2）生活の様子の変化

A 園職員によると、支援から約 1 年経過した現在の対象者の様子は以下の様子である。対象者は職員からの声かけに反応したり、指示に従うことが増加した。また、以前朝の散歩はまったく行くことができず、職員からの誘いにもまったく応じる気配を見せなかったが、現在ではほぼ毎日、朝の散歩に行くことができている。作業中も、パーティションなどで対象者の場所を設定することで、継続して作業を行うことができている。作業終了後に、好きな折り紙をもらえるという流れが理解できた様子ある。毎週水曜日の芸術療法の時間では、10 枚から 20 枚をクレヨンを使用して電車やロボットなどを自由に描いている。このことは、絵を描くことが好きな対象者にとって週に 1 回の楽しみになっている。散歩後や割り箸入れの作業を 1 セット実施した後、あるいは要求するときに使用する写真カードを提示できた時などに、職員から褒められると笑顔を見せるときがある。

また、問題行動の直後の対応として、15 分間居室にいるように誘導して指示しているが、その後は再度同じ他者に攻撃的行動を示すことはないとのことである。

3）実効性と効果性について

支援の実効性評価の結果、第一次支援計画時よりも第二次支援計画時の方が、多くの職員において支援の実効性が高まったことが示された。一方、支援の効果性に関する評価では、職員によって評価が分かれた。

主に実効性の高い支援として挙げられたのが、「作業場を他の利用者とパーティションで区切る」、「問題行動後は、折り紙などは提供する必要はない」であった。一方、

実効性の低い支援としては、「作業中などに、定期的に、様子を見ながら、褒めるようにする」、「攻撃行動後、居室に誘導する」であった。

また、効果性の高い支援として挙げられたのが、「作業場を他の利用者とパーティションで区切る」、「欲しい物を要求するときは写真メニューの中から、指さしで伝える」であった。一方、効果性の低い支援として挙げられたのが、「苦手なことをやっているときに、定期的に、様子を見ながら、ほめる 」、「お手伝いをする」であった。

D．考察

本研究の対象者は、強度行動障害の範疇には入らず、行動障害の程度は激しくないが、攻撃的行動の強度が激しいため職員からの嫌悪的な印象が強く、職員の困り感も大きかった。

支援の中心は本人にとって嫌悪的な作業場面や朝の散歩場面における支援において、どのように環境を設定するかに比重を大きくした。作業時に本人にとって嫌悪的な周囲の騒音を遮断したり、朝の散歩を強制せず、仮に散歩に行くことができれば、強化子が提示されるという設定により、対象者の嫌悪感が徐々に軽減されてきたと考えられる。これらの支援の成功により、職員と対象者の関わりも徐々に良好になり、支援の実行性も高まったのではないかと推察される。

支援の実行性と効果性に関しては、支援の嫌悪性が高く、専門的な支援技術が必要な場合、実行性が低くなるのではないかと思われる。例えば、効果的ではあるが、より専門的な技術が必要な問題行動に対する代替行動の支援などは実行性が高まらなかった。仮に、施設現場において効果性の高い支援を実施する上で専門技術が必要な場合、職員の知識や支援技術に左右されやすいため、職員から敬遠されやすく実効性が低くなると考えられる。強度行動障害者のような専門的な支援技術を要する場合は、支援技術を直接的に教授できるような専門家の配置が必要であるし、もちろん施設側もその受け入れが可能でなければならない。

施設コンサルテーションの課題として、ボランティアや外部専門家の受け入れに消極的な施設へのコンサルテーションの実施はたいへん困難なものとなる。仮に、施設職員が受け入れに積極的でも、所属長の意向がコンサルテーションの受入れに消極的であると施設職員の意向が消去されてしまうことになる。 今後は、茨城県下全域において、行動障害の専門家の配置を含めたシステム作りが求められる。

E. 引用文献

O'Neill, R. E., Horner, R. H., Albin, R. W., Sprague, J. R., Storey, K. & Newton, J. S. (1997) *Functional assessment and program development for problem behavior. : A Practical handbook.* Baltimore MD: Brookes/Cole Publishing Company, 茨木俊夫・三田地昭典・三田地真実 (2003) 子どもの視点で考える　問題行動解決支援ハンドブック．学苑社.